



去る十二月一日の日曜日、淀川の源流、三重県伊賀市の南端の山間地にある上高尾（かみたかお）で「源流フェス」が開かれました。自然の恵みを味わい、一年の労働をねぎらい、山の神に感謝する祝祭。巨大なクリスマスツリーのもと、村内外の人々が一緒になって、上高尾の清流で育てられた源流米、燻製にした鹿肉、そして、完成し

源流の村、上高尾との交流

たての石窯で焼いたピザに舌鼓を打ちました。食事と交流のあとは空堀ことば塾のこどもたちが落語を披露し、トリには由良川源流に住むドイツ人芸術者、ウベ・ワルターさんが、ユーモア溢れる関西弁と冴えた尺八の音色で参加者を喜ばせました。遠く隔たった上高尾のことをからほり新聞の記事にするにはわけがあります。下町のシユタイナー教育の場として空堀ことば塾を主宰する筆者は、四年ほど前に夏の自然学校の候補地として初めて上高尾を訪れました。当時は「ふるさとづくり上高尾の会」が立ち上がったばかり。「淀川流域ノラおこしプロ

ジェクト」と銘打って、伊賀市や京都大学農学部、大阪のアーTONPOと協働しながら、米作りを軸としたイベントを主催していました。そのときのご縁が今に繋がっています。上高尾はいわゆる限界集落。上高尾の会のメンバーは、人口流出と高齢化により増えつつある休耕田を憂い、なんとか村を再活性化して次世代に田を継承していきたい、という強い想いをもたれています。今春には、上高尾の会の活動に共感する大阪の有志が「上高尾サポーターの会」というグループを結成しました。初仕事は、三月十日、空堀商店街での直販会。軽トラックではるばると運ばれたお米も薫灰麹も見事完売。好奇心旺盛な空堀のみなさんは実にフレンドリーで、イベントは大成功でした。

上高尾には町で目にする華やかなものは何もありません。けれど、こどもたちは全身で弾け満面の笑顔になる。目には見えませんが、どうやら、源流の村には、米を育てる大地、源流を流れる水、森を吹き渡る風、そして天空に輝き薪の燃え上がる火から、生命のエネルギーが一杯に降り注いでいるようです。教育を仕事とする私から見ると、源流の里上高尾は、化学物質にあふれた現代に生きる私たちにとって、もっとも必要とされる食農教育の最前線に見えます。被ばくが進む福島のことどもたちを招いたサマースクールなどの新しい活動を念頭に置きながら、川を通じたパートナーとして手を携えて進んでいきたいと思えます。（空堀ことば塾・主宰、上高尾サポーターの会会員、塙 狼星）

からほり新聞

第28号 (2013.12.23)

「空堀界隈を散策される皆様へ」

- ◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
- ◆美しい石畳や木造家屋にゴミは合いません。
- ◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

会のお知らせ

当会は寄付が主な活動資金です。この度イオングループのKOHYO空堀店様のご支援を頂くことになりました。毎月11日黄色のレシートを備え付けのボックスに入れて頂くと売り上げの1%が高齢者外出介助の会に還元されます。皆様ご協力お願い致します。

- スケッチでかまいません。本格的な詩や小説を書きたい、というあなたも大歓迎です。▶問い合わせ：06-6768-6195 <http://www.osaka-bungaku.or.jp/>
- 楓ギャラリー
 - ▶冬期の予定はこちらで確認ください。<http://kaede-g.at.webry.info/>
- たなかキッズクラブ
 - ▶新年は1月6日より▶1月8日(水)13時～▶折り紙あそび▶参加自由▶問い合わせ：090-5369-9209

お買い物は空堀商店街で

特定非営利活動法人

高齢者外出介助の会とは？

お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。

- ①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
- ②暮らしサポーター(買い物、薬取り、入院時支援など)
- ③車椅子貸し出し(お気軽にご利用下さい)
- ④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、布ぞうりなど)
- ⑤ハーモニカ教室
- ⑥「からほり新聞」制作

お気軽にお問い合わせください。

大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
TEL&FAX 06-6764-4002
月～金(10:30～15:00)
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: odekake-karahori.com

お年寄りの皆さんに、住み慣れた町で楽しく充実した暮らしが続けられることを願って、支援活動や暮らしの潤いに様々な企画を推進しています。

- 高齢者外出介助の会
 - ▶3月15日(土)▶園田苑(尼崎)▶童謡・唱歌のコンサート▶歌：栗崎悦子さん▶ピアノ：東野俊子さん▶参加無料▶問い合わせ：06-6764-4002
- 桃園会館
 - ▶1月26日(日)モーニング喫茶 ▶9時～11時▶100円▶パン、サラダ、卵、コーヒーかジュース▶問い合わせ：06-6762-5599
- かみなり亭
 - ▶1月18日(土)18:30～▶笑福亭一門落語会▶葉業年金会館▶喜額銭：当日1500円▶問い合わせ：06-6768-3549
- 島之内図書館
 - ▶1月9日11時～▶多目的室▶赤ちゃんのお楽しみ会▶問い合わせ：06-6211-3645
- 大阪文学学校
 - ▶さあ、書き始めよう。最初は日記の延長、日々の

☆編集後記

◆物忘れがひどいから、来年は輪を忘れて若返るかな？(ケラコ)
◆11月30日に開催されたぶら空堀ミニまつり！いつもの土曜日とは違った賑わいがありました。春の開催も楽しみです☆(のぶ)
◆先日鍋をしました。その残りに継ぎ足し続けても

う一週間たちます。老舗の焼き鳥屋の秘伝のタレの樣だと笑ってしまいました。(朝霧和)
◆佐賀県伊万里で面白い高齢女性に出会いました。旅行者になぞなぞと答えが入った封筒を渡していただきました。外国人にも話しかけるし、観光地の高齢者は積極的です。(河野)

「箏・三絃」教室

箏曲：生田流 三絃：九州流

門脇 裕子 稽古日：相談 月謝：5,000円
TEL 080-3117-6684

ボランティア募集

高齢者外出介助の会

内容は外出介助ボランティアをして下さる方
連絡 TEL 06-6764-4002

大阪城の今昔(下)

大家康は、はだか同様の大阪城に監視役を置いて、少しでも堀を掘り起こしたり、戦闘資材を集めだしたりしたら直ちに報告せよ、と命じていましたので、血気盛んな豊臣の家来が秘かに動き出すのを見逃しません、直ちに反乱軍とみなして諸大名に攻撃命令を出します。

こうして夏の陣が始まります。冬の陣からは半年しか経っていませんでした。家康軍は15・5万、豊臣側は5・5万、京都を出た家康軍は3日かかる筈の道のりを2日でこなし大坂に攻め入りました。

あまりの速さに人々は逃げる暇もなく、兵士も堀の無い城に留まることも出来ず、打つて出るしかありません。大坂城の本丸は瞬間に焼け落ち、戦いは市街戦に持ち込まれます。戦場は凄惨を極めました。徳川の雑兵達は町民や兵士の見さかぬ無く殺戮を繰り返して、町民は北へ北へと逃げ惑いました。荷物を頭に載せて大川を渡る人、子を庇う母親、橋げたにつかまり動けない人など、屏風絵「夏の陣図」(大阪城博物館現存)にはその様子が描かれています。あまりの悲惨さに



九州福岡の大名、黒田長政が懺悔と鎮魂の思いを込めて、多くの絵師を集め描かせた屏風絵だそうです。また、生身の人々が戦利品として江戸に連れて行かれ、幼児から大人まで数千人にのぼったとの記録も残っています。この悲惨な戦いは参戦した大名達を震いあがらせ、以後家康に刃向かう大名は出なくなりました。こうして1615年、秀吉築城の大坂城はわずか32年で焼失し落城してしまいました。大坂の町から逃げ出した町民はなかなか戻って来てくれず、仕方なく地方から町ぐるみ大坂に移住させました。山城の国の伏見の人が住んだ伏見町、近江の商人が住んだ安土町、平野から移住した人達の平野町、など町名は今も残っています。焼失した大坂城は1620年から、2代将軍徳川秀忠が9年がかりで再建にかかります。以前の土地の上に数メートルの盛り土をして、豊臣色の払拭を計りました。ところが、このお城も落雷により36年目に天守閣を

焼失、以後昭和時代に入る迄の300年間は、お城の顔とも言える天守閣は無いままでした。この大坂城は幕府の直轄となり、城主は徳川家代々の将軍です。しかし、住まいは江戸の為代わりに譜代大名から選ばれた城代が赴任して来ました。250年間に70人も城代が変わっているの、1人の赴任期間は平均して3年余り、だから大阪人にとって、大坂城の殿様は、徳川様という認識はあまりありません。夏の陣から313年を経て、1928年(昭和3年)に当時の大阪関市長が天守閣の再建を提案し、市民の浄財が集まりました。3年後の昭和6年、立派な鉄筋の天守閣が完成し、今は博物館となって、大阪のシンボルとして市民に愛されています。そして、やっぱり大阪のお殿様は、430年前のままの太閤さんなのです。(おわり)

(梶田 尚子)



冬の陣で激戦地だった空堀商店街



ケラ子の介助日記

毎日がリハビリ

高齢者外出介助の会
事務局長 永井佳子

最近のさろんの話題で多いのは、さろんの忘れ物から、物忘れのことや指先などが鈍って何をしても時間がかかるなどです。

例えばスーパ―では小銭を出すのに手間がかかります。迷惑になると思ってしまう大きなお金を出して、小銭でいっぱいのお財布を持ち歩く羽目になる、というような若いときは考えもしなかった日々の変化で盛り上がりません。

小銭といえば、認知症だった姑も小銭でいっぱい財布が膨らんでもち重みがあるほどでした。私と一緒に買い物に行った時など、その小銭を使っただけで軽く整理してあげ

た」などと思っていました。

姑は計算がわからないので無難な大きいお札を出すのですが、私の場合は、後ろに並んだ人を見て早くしないと、あせってしまうのです。

ある人が、「私はスーパ―で、『ちょっと時間がかかるけど指先のリハビリをしているので』と言ってゆっくり待ってもらう」とおっしゃっていましたのでそれは賢くて良いなあ、まねをしてみました。そうすると、店員さんは「いいですよ」と、ゆっくり待ってくださいだったので。断ったので意外に後ろの人にも気を使わずにすみませした。これからはこの方法で行こうと思います。



車椅子がらめしてみれば

高齢や障害で車いす生活になることは誰にでも起こるかも...でも車いすからは世の中がよく見えてくる。そんなおじさんの考えたことを連載で。

十一月初旬に、空堀地区の大部分を占める桃園連合町会の防災避難訓練がありました。

毎年行われている訓練で、昨年からの地域の避難所に指定されている南高校に集まり、中央消防署の協力で緊急時の訓練をするというものでした。

また、各家で戸口にタオルを出して安否確認することも回覧板で伝えられていました。

当日、町会役員の安否確認の声掛けがあると、思っていたのですが、手

違いか？私たちの班には何もありませんでした。避難所の南高校に行ってみると訓練場所が三階の体育館で、長いスロープで上がった入口には段差があつて、私は入れませ

筋力アップ講習参加者募集

毎週火曜日1時30分～ 無料

高齢の皆様少しでも筋力維持に参加されませんか？

場所：からほりさろん 電話番号：06-6764-4002

主催：高齢者外出介助の会



地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援をよろしく願い致します。共同募金は、10月1日～12月31日の期間ですが、年間を通じて寄付金を受付しています。●大阪府共同募金会事務局は、谷町7丁目交差点を信号1つ西入ルの大阪社会福祉指導センターの2階にあります。どうぞよろしく。●ホームページをぜひご覧下さい。http://www.akaihane-osaka.or.jp

か ら ほ い 界 隈 お 散 歩 M A P



其の25 ～素敵な隠れ家編～

今回は、ちよつと気になるけど入りにくいお店やギャとか、路地の奥で場所が分かりにくいお店やギャラリなどを集めてみました。

商店街のメインストリートの1階の店舗はぶら歩いて見つけられませんが、2階のお店とか、路地裏のお店はなかなか気が付きません。「こんなところに？」と思うような路地裏の場所がある雑貨屋さんもみつきました。オーブンして日が浅いお店も、からほりマップを片手に訪ねて来られる方も増えたりと、か。商店街や路地裏を散歩するのがおもしろいところに入ります。この場所が魅力から

★ トリントンティールーム



英国紅茶と雑貨のお店
時間：11：30～20：00
(土日祝10：30～19：00)
定休日：火曜日
電話：06-6191-9870

★ コトリネ



ビルの2階にある雑貨とお洋服のお店。木工作品がかわいい。
時間：11：30～17：50
定休日：水・日
電話：06-6762-1156

★ おおきな木



昭和の懐かしいものがいっぱいの雑貨屋さん。
時間：13：00～18：00
(土日祝11：00～17：00)
定休日：月曜日
電話：06-6191-0750

★ Café Knot



ビルの2階。商店街で買ったお惣菜やお刺身などを持ち込み可能なカフェ。
時間：12：00～18：00
定休日：水・木・不定休
電話：080-2527-3201

★ クーデリーカフェ



惣の1階。築100年の長屋を改装。手作り雑貨や食器、ミニギャラリー。
時間：11：00～19：00
ランチ11：30～14：30
定休日：水曜日
電話：06-6762-5664

★ Spectrum gallery



「惣」の2階。日本の作家の発掘を目的に質の高い現代アートと写真を発信。
時間：12：00～19：00
(日曜日と最終日は～17：00)
定休日：水曜日
電話：06-6710-4648

★ Logic



ビルの2階にある古着とアンティーク雑貨のお店。階段のディスプレイもかわいい
時間：12：00～23：00
電話：06-6770-5144

お惣菜とお魚の店「まつい」



古い家を個人的に使うことで、からほりの魅力が際立ちます。全国展開のチェーン店のように個性がない店ばかりになってしまうと、どこの町に行っても一緒になってしまします。お客様にからほりを楽しんでいただくという発想で店を作ることとはとても大事なことに感じました。個人的な店舗が増えていけばそれだけで観光資源になるといこうとですね。

築96年の建築をそのまま店舗として使っています。店内には防空壕を埋めた跡があり、住居部分にはまだ防空壕

が残っています。お店の前では息子さんがカンテキで魚を焼き、店内ではお母様が惣菜を売っておられます。「ここはガスを引いてないんですよ」お惣菜も炭火で調理しているとのこと。「いい炭で焼いたら全然味が違います」と息子さん。手間がかかるけど使う炭にこだわった味です。暗い店内ですが、赤い金魚の下げ飾りが華やかで、明治・大正にさかのぼったような空間です。テレビ局が取材に来ることもあるそうです。

お惣菜とお魚*まつい
中央区上本町西3-3-21
電話なし

ギャラリィ「デッシャロ」



「惣」の近くの路地を入って行くと、突然現れる白黒の建築。オーナーのリックイ宮前さんが経営する貸ギャラリィと写真教室「デッシャロ」。この不思議な建物はご自分で5年と4ヶ月かかって改装されたそうです。店の看板は鉄道駅の表示のようなしゃれのきいたもの。「時々、建物を見て、カフェと間違っ入ってこられる人もいます」とのこと。

西部劇の酒場のような内側のドアも遊び心満点です。白と黒というコントラストを強

調した建物にした理由は「白黒にしたら汚れが目立たない」とのこと。貸ギャラリィのレンタル料金は1階、2階両方で1週間7万円。時々、写真教室の卒業生の方たちがグループ展をしています。リックイさんの写真教室では新規受講生を募集していますので、詳細は気軽にお問合せ下さい。

ギャラリィと教室
***デッシャロ**
中央区瓦屋町1-2-13
電話06-4304-7580

快傑！からほり人 快傑ファイル其の二十三

「FASHION HOUSE」

KAWASHIMA

オーナー 川嶋良博さん

空堀商店街谷町筋から西へ五百メートル、緩やかな坂が始まる辺り、和菓子屋・松竹堂の向かいに、洋服が外にもずらりと並ぶお店があります。そこが洋服屋・テーラー川嶋です。(正式名称は FASHION HOUSE 川嶋)

川嶋さんは祖父、父親と続くテーラー川嶋の長男として生まれました。お父さんはテーラー川嶋を継いでほしくて、店を改築します。大学でバトミントン



に熱中していた川嶋さんですが、父親の気持ちに根負けして店を継ごうと決心します。そこには川嶋さんが十歳の時に咯血した、体の弱い父親への愛情がありました。ついに二十一歳の時に大卒をやめ、服飾の専門学校に入り直します。卒業後、父子二人で店を切り盛りしていましたが、川嶋さんが二十六歳の時に父親は他界してしまいます。

それから三代目テーラー川嶋になりました。たくさんのお客さんが、その中の一つにバイ

クがあります。しかし四十二歳の時、事故で右側の骨盤を骨折してしまいます。その時からリハビリのために自転車(ロードバイク)を始めました。初めは趣味で走っていましたが、物は試しと出てみた「伊吹山ヒルクライム」という大会で優勝してしまいます。それからいくつものレースに参加し好成績を収めていきます。日中は服屋のオーナー、朝と夜はロードバイクという生活を続けてきましたが、

の骨盤を骨折しています。「寒くなったらほんまに痛くて、ぎしぎし言うのが聞こえる」と。さらに今年、静脈瘤の手術で食道を切りました。三週間くらい何も食べられないのに、隠れて筋トレをして看護師さんに怒られたと言います。

二〇一〇年、恩人に頼まれロードレース(何百キロの距離を、集団でロードバイクで走り、そのタイムを競う競技)の為にサイクリングチームを設立するお手伝いをするようになりました。ロードレースにはお金がかかります。ロードバイクにもお金がかかります。ロードバイクにもお金がかかるし、何かと物入りです。

「頑張ってる」という意識はあまりない、多分全力を出すのが好きなんやろね」と清々しく笑います。

最後に空堀商店街に対する思い出を聞くと「ロードバイクを始めた頃、その自転車自体が珍しかったこともあるけど、競技用の服が派手だったから、みんな目を丸くしていたのが印象深い」と。「そういう意味では空堀商店街に新しい風を吹き込めたかな」とおかしそうに笑いました。

(大阪文学学校 朝霧和)